

連続雨量508ミリ、 記録的な集中豪雨が、 黒部川周辺を飲み込んだ。

1995年7月10日、北陸地方に停滞した梅雨前線が活発化し、翌11日から13日にかけて黒部川流域に激しい大雨を降らせた。猫又雨量観測所では、11日17時から18時の一時間に64mmの降雨を観測、13日未明までの連続雨量は508mmに達し、記録的な豪雨となった。富山地方気象台は、大雨・雷・洪水警報および注意報を相次いで発表、警戒態勢はおおよそ10日間にわたってつづいた。黒部、高岡市などでは99,000世帯が停電、黒部峡谷鉄道が土砂によって寸断されるなど、道路と合わせて交通網も大きな被害を受けた。その後も前線が停滞し、断続的な雨は20日過ぎまでつづいた。また、この集中豪雨によって、黒部川流域の各所では出水や増水が発生。集落の孤立化が進み土砂崩れや洪水も発生するなど、周辺地域は甚大な被害に見舞われた。



祖父谷新規模地



黒部峡谷鉄道黒部川橋脚の倒壊状況



視母岩管理溝跡



猫又地区



祖父谷上流部崩壊地



黒部峡谷歩道橋被災状況



樺平地区の宿泊施設被災状況

**黒部峡谷
猫又で増水
作業員11人孤立**

十一日午後八時五十分ごろ、宇奈月町猫又谷谷合で黒部川が増水し、関西電力猫又上車用倉庫所（鉄筋コンクリート二階建て地下）が浸水、作業員十一人が孤立したと、同町宇奈月の関西電力黒部川電力所から黒部電に、救助を求める連絡が入った。

「31面に関連記事」
同報によると、同町宇奈月、東栄土木と富山市堤町新、北陸厚生の一社の作業員で、現場には黒部峡谷向かえず、線路は浸水して、前五時をめぐりに、同町隊へ、リと嵐電へリで救助に向か